

山桜の里 戸赤

避難訓練と

厨房から火災発生と想定し、消防署
へ電話通報・避難訓練を実施



冬囲いと

やまざくら学校の冬囲いと避難訓練、広場の整理、東京電力原発事故に伴う立木賠償請求の説明会、収穫祭が11月6日午後から行われました。立木賠償説明会には町森林組合から湯田、宮本二名の出席をお願いし、共有地の持ち分と個人所有を合わせて個人ごとに請求すること、話がまとまり、欠席者へは改めて通知し意向を確認の上、足並みをそろえて手続きを始めることになりました。



収穫祭と

午後から始まった共同作業(8割以上参加)、やまざくら学校の避難訓練、立木賠償説明会が終わり、4時過ぎから始まった収穫祭、女性陣が準備したトン汁は体も心も温かくしてくれた



冬囲い作業、やまざくら学校のウオッシュレットなどは凍結期前に水抜きして春まで休眠

立木賠償 説明会



賠償請求は森林組合を経由して事務手続きをすることになりました

原子力発電所の事故により、しいたけ原木として出荷予定が見込まれる立木を東京電力が賠償するにあたり、森林組合を経由して請求することとした所有者は、固定資産課税証明書、東電への請求者情報に関する同意書、森林簿交付申請書など必要書類を整えることとなり、事務局を設けて委任状を提出しました。

【木地の学習No.71】古木地師の三角地帯 福島・山形・宮城三県の接した地点、つまり吾妻山麓から栗子、刈田郡にかけての三角地帯は、遅くとも中世末には木地師の存在したところである。米沢市では板谷を中心として、大小屋・元小屋・五色・大平・福島側では、大龍ひかわ・茂庭・宮城側では稲子と近世初期の横川である。板谷に関しては、第1章で既に触れたように、田島町小椋十三男、昭和村小椋一夫両氏蔵の系図に記載があり、古くから木地師の存在が確認できる。地名は土地を区分するために付けられたものであり、その地名によっては、木地師が存在していたことを証拠づけるものもある。それが「轉廬」「小屋」地名なのである。「轉廬」地名は西日本に多く、東北地方では数ヶ所で確認されているだけであり、ほとんどが「小屋」地名である。特に木地師の往来が激しかった会津地方には顕著に残されている。吾妻山麓も「小屋」地名の多いところで、板谷の隣、R奥羽本線大沢駅にある米沢市大沢には、平小屋・鉄砲小屋・楢小屋の地名があった。「あった」と過去形で記したのは、現在では楢小屋の外は伝承されずに消滅してしまったからである。昭和十三年の『山形県地名録』に記載されているから、わずか六十数年の間に村人の間に伝えられなくなったということだろう。

(会津地方歴史民俗資料館「木地語り」より) (続く)

文化祭

町長賞部門の銀賞に輝いた水彩画



小椋義道さん(28.3.27撮影)



小椋義道さんの水彩画は町文化祭の町長賞部門で銀賞に輝きました。感想を聞くと「自分の

山合にのどかな春よ木地工房

作品に添えられている唄(左)



文化祭出品の拭漆3点(室井春雄)

趣味は妻にもわかってもらっているから「こそこそできる」の感謝の気持ちも伝わってきました。



「留木の定」に関心が集中、10人と交流(10.29)

ふくしまの香りを求めて

れきのひとコマ

川が變わって道が長なる



現道橋の石積みが改修されることによりスムーズに合流しそうな井戸沢川

「香りでつなぐ」つながらるふくしま香LINKプロジェクトリーダー一行の要請に応じ集落の数人は、地元で自生する良い香りのする樹木や昔の暮らしなどの体験談を紹介するとともに、香りに託す若者の思いを聞くなど、有意義なひと時を楽しみました。

ちょっといっぴく
【25.3.10 区総会で】



10/14買い取り時品買を吟味。安心できる出栄えと松崎社長

今年は豊作 花豆栽培

（おおくや 松崎社長 談）
今年も戸赤も豊作の年と感じました。粒も前年度より大きく全体的にふっくらとしております。花豆から小豆や黒豆に切り替えている農家さんもいらっしゃいますが、農業を続けていただいているのがありがたいです。…ピーナッツ栽培などでも戸赤との共同製作に期待しております。

- 10月14日
1回目集荷実績
- 小豆 33.7 kg
 - とら豆 11.8 kg
 - 赤ささぎ 13.6 kg
 - A 花豆 425 kg
 - B 花豆 49 kg



星光意さん

(ストーリー性のある村づくいのために[No.39] 只見町窪田遺跡では、弥生中期の住居に近接して再葬墓が確認され、口頸部に隆帯をもつ古式の土器と小玉・管玉・勾玉が出土している。また安山岩製の穂摘具の出土が注目される。田島の折橋B遺跡においても縄文遺跡では見かけない石斧がかなり出土しており、穂摘具や打製石鍬の製作をしていた可能性が考えられよう。南御山I式とそれより古い資料は他に、下郷町では文次郎・落合A・原・五百地・稲干場の各遺跡、伊南の馬捨場遺跡で出土している。田島では宮ノ沢遺跡から出土しており、南会津ではそれ以前の晩期から継続して営まれる例が多い。南御山II式の資料は、下郷町落合A・塩生小山両遺跡から良好な資料が出土しているが、南会津では断片的な資料が多い。続くニツ釜〜川原町口式期の資料は、下郷の場合三〇余りの遺跡のうち、二四の遺跡で確認されている。田島では岩下・油燈・行司B・折橋B・曾根崎・赤坂・落合道下各遺跡、伊南の上八田遺跡と白沢遺跡から出土しており、量・質共に充実している。中でも下郷中井・上ノ平遺跡には良好な資料が見受けられる。御山村下期の資料はまだ量的には少ないものの、下郷町塩生遺跡や折橋A遺跡・折橋C遺跡・寺前遺跡などで確認されている。御山村下期以降の天王山式や十王代式など末葉の資料は、田島上ノ原遺跡や南郷の臼久保遺跡などの資料があるが、資料が少なくその実態は明らかでない。(「下郷町史」第7巻通史編(発行・下郷町)より出典(続く))